

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
4 月	①正負の数 ●反対の方向や反対の性質をもつ数量を、正負の符号を用いて表す。 ●正、負の数を数直線上に点を表せることを理解し、絶対値の大きさを比べ、不等号を用いて表す。	- 身の回りから「-」のついた数を見だし、それらが表す意味を理解する。 - 反対の方向や性質をもつ量を、0を基準として正、負の符号を用いて表すことができる。 正、負の数の意味を理解し、数の世界が拡張されたことをとらえることができる。 - 負の数も数直線上の点として表せることを理解する。 - 数直線上の位置や絶対値の大きさによって、正、負の数の大小関係を判断できる。 正、負の数の大小関係を、不等号を用いて表すことができる。	知識・技能	○正、負の数を用いることの必要性やよさを知り、数の概念および数の世界が拡張されたことを理解している。 ○正、負の数の大小関係を、数直線上での位置や絶対値の大小と関連付けて理解している。 ○正、負の数の加法・減法の意味や計算方法を、加法と関連付けて理解している。 ○小学校までの数の計算と関連付けて理解している。 ○正、負の数の加法・減法・乗法・除法の計算ができる。 ○四則やかっこが混じった計算ができ、交換法則や結合法則を使って工夫することもできる。 ○仮平均を定め、正、負の数を活用して平均を求めることができる。 ○数の集合の包摂関係を図で表すことができる。	○正、負の数の大小関係、不等号や絶対値の意味を理解している。 ○正、負の数についても、加法の交換法則・結合法則が成り立つことを理解している。 ○項、正・負の項の意味を理解している。 ○加減の混じった式の計算方法を理解している。 ○反対の方向や反対の性質をもつ数量を、正、負の数を用いて表すことができる。 ○正、負の数を数直線上に表したり、大小関係を不等号を用いて表したりすることができる。 ○正、負の数の加法・減法・乗法・除法の計算ができる。 ○式を累乗の指数を使って表したり、累乗の指数を使って表された式を計算したりすることができる。 ○逆数を使い除法を乗法に直して計算することができる。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
5 月	②加法と減法 ●数直線を用いて、正、負の数の加法・減法の計算を調べる。 ●式の項の意味を理解し、加法と減法の混じった式を項だけを並べた式に直し計算する。	- 具体的場面を通して正、負の数の加法の意味を理解する。 - 加法の計算方法を、数直線を用いて考えることができる。 - 加法の規則との比較によって減法の規則を理解し、それに基づいて減法の計算ができる。 - 加減の混じった式を代数和の形になおし、計算することができる。	思考・判断・表現	○反対の方向や性質をもつ数量は、正、負の数を用いると統一的に表せることをとらえることができる。 ○2数の符号と絶対値に着目して、正、負の加法の計算方法を帰納的に見いだすことができる。 ○減法は加法に直して計算できることを、帰納的に見いだすことができる。 ○正、負の数の加法・乗法の交換法則と結合法則が成立することを、帰納や類推によってとらえることができる。 ○仮平均からの増減を調べるなど、正、負の数を活用して事象の状況を捉えることができる。	○「-」のついた数の意味を考えることができる。 ○数直線を基にして正、負の減法の意味を考えることができる。 ○減法は加法に直して計算できる。 ○速さ、時間、距離の関係を基にして、正、負の数の乗法の意味を考えることができる。 ○掛け合わせる数の符号と絶対値に着目して、正、負の数の乗法の計算の方法を帰納的に見いだすことができる。 ○数の集合の包摂関係を、四則計算の可能性と関連付けて考えることができる。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
	③乗法と除法 ●正、負の乗法・除法の意味と計算のしくみを理解する。 ●数の集合の広がりや、四則計算の可能性と関連付けて理解する。	- 具体的場面を通して正、負の数の乗法の意味を理解する。 - 乗法の規則を理解し、それに基づいて乗法の計算ができる。 正、負の数でも乗法の交換法則・結合法則が成り立つ計算ができる。 - 逆数の意味を理解し、除法を逆数を使って乗法にし、計算できる。 - 乗法と除法の混じった計算ができる。	主体的に学習に取り組む態度	○+、-の符号に関心を持ち、その使い方を考えたり、それを用いて身の回りの事象を表現したりしようとしている。 ○加法の計算法則や加法と減法の混じった計算に関心を持ち、効率的な計算の方法を考えようとしている。 ○四則やかっこが混じった計算に関心を持ち、計算の方法を考えたりしようとしている。 ○正、負の数を活用することに関心を持ち、工夫して平均を求めようとしている。 ○数の集合の広がりに関心を持ち、集合間の包摂関係や四則計算の可能性と関連付けて考えることができる。	○「-」のついた数に関心を持ち、身の回りから探したり、その意味を考えたりしようとしている。 ○正、負の数の加法・減法に関心を持ち、その意味や計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。 ○正、負の数の乗法・除法に関心を持ち、その意味や計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。 ○四則やかっこが混じった計算に関心を持ち、計算することができる。 ○正、負の数を活用することに関心を持つことができる。 ○数の集合の広がりに関心を持ち、集合間の包摂関係を考えることができる。	授業観察 問題集 反省プリント 自習ノート
	③正負の数の利用 ●具体的な場面で、正、負の数を活用し、仮平均を定めて資料の平均を求める。	- かっこを含む計算、四則の混じった計算の順序を理解し、計算することができる。 正、負の数についても、分配法則が成り立つことを理解し、利用することができる。				

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
6 月	①文字を使った式 ●数の代わりとしての文字の意味を理解し、いろいろな数量の文字を使った式で表す。 ●具体的な場面で文字式の意味を読み取れる。 ●代入、式の値の意味を理解し、文字にいろいろな数値を代入して式の値を求める。	- 数の代わりとしての文字の意味を理解し、数量を文字を使った式で表すことができる。 - 文字式の積や商の表し方を知り、それに基づいて数量や法則を文字式で表すことができる。 - 代入、式の値の意味を理解し、1つの文字に数を代入した場合の式の値を求めることができる。	知識・技能	○文字を使った平行四辺形や三角形の面積の表し方を理解している。 ○項、係数、1次の項、1次式の意味を理解している。 ○同じ文字を含む項は、分配法則を使って1つにまとめられることを理解している。 ○数量の関係を文字式で表すことのよさを理解している。 ○文字式の積や商の表し方に従って、いろいろな数量の関係を文字式で表すことができる。 ○いろいろな式の値を、能率的かつ正確に求めることができる。 ○分配法則を用いて、1次式の計算ができる。 ○1次式の計算を活用して、文字式を簡単な形に直すことができ、その計算方法を説明することができる。	○文字を用いることの必要性や意味を理解している。 ○文字式の積や商の表し方を理解している。 ○代入、式の値の意味を理解している。 ○1次式と数の乗法・除法の計算の方法を理解している。 ○1次式どうしの加法・減法の計算の方法を理解している。 ○数量の関係を文字を使った式で表すことができる。 ○文字式の意味を読み取ることができる。 ○文字に数値を代入して、式の値を求めることができる。 ○1次式と数の乗法・除法の計算ができる。 ○同じ文字を含む項を1つの項にまとめ、式を簡単にすることができる。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
7 月	②文字式の計算 ●1次式、項や係数の意味を理解する。 ●1次式と数の乗法・除法の計算をする。 ●分配法則を用いて、やや複雑な1次式の計算をする。 ③文字式の利用 ●具体的な場面において、数量の関係を文字式で表し、式の意味を説明し伝え合う。	1次式の意味や、その項と係数の意味を理解する。 - 同じ文字を含む項は1つの項にまとめられることを理解し、その計算ができる。 1次式と数の乗法・除法の計算ができる。 1次式の加法・減法の計算ができる。 - やや複雑な1次式の計算ができる。 - 様々な数量を文字式を用いて表し、式の意味を説明できる。	思考・判断・表現	○文字式の中の文字には、いろいろな数値が代入できることを、文字式の意味と関連付けてとらえることができる。 ○同じ文字を含む項をまとめることの意味や方法を、面積図や分配法則を基にして考えることができる。 ○数と1次式の加減乗除を、日常的な場面や具体的な数の計算などと関連付けて考えることができる。 ○数量の関係を文字式でどのように表せるかを考えたり、その過程を振り返って説明したりすることができる。	○数量の関係を文字を使った式でどのように表せるのかを考えることができる。 ○文字式の積や商の表し方のよさを考えることができる。 ○数量の関係を文字式でどのように表せるのかを考えたり、式が何を意味しているのかを考えたりすることができる。 ○数量の関係を文字式で表すことのよさを考えることができる。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
			主体的に学習に取り組む態度	○文字を用いることに興味を持ち、その必要性と意味を考えたり、文字を使ってすすんで式に表したりしようとしている。 ○文字式の項に関心を持ち、同じ文字を含む項をまとめることの意味を考えようとしている。 ○文字式の計算に関心を持ち、計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。 ○文字式を活用することに関心を持ち、数量の関係を式の意味を説明したりしようとしている。	○文字を用いることに興味を持ち、その必要性と意味を考えたり、文字を使って式に表したりしようとしている。 ○文字式の積や商の表し方に関心を持ち、それに基づいて数量の関係を式に表したり、式の意味を読み取ったりしようとしている。 ○式の値を求めることに興味を持ち、式の値を求めようとしている。 ○文字式の計算に関心を持ち、計算しようとしている。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
9 月	①方程式とその解き方 ●数量の相等関係や大小関係を調べ、等式や不等式で表す。 ●方程式とその解の意味を理解する。 ●等式の性質を利用して、簡単な1元1次方程式を解く。 ●移項を用いて1元1次方程式を解く。 ●かっこを含む方程式や係数に小数や分数を含む方程式を解く。	・いろいろな数量の関係を、等式を利用して表すことができる。 ・等式と方程式の意味を理解する。 ・方程式の解、方程式を解くことの意味を理解する。 ・等式の性質を理解し、それを利用して、簡単な方程式を解くことができる。 ・等式の性質をもとに移項の意味を理解し、その考えを利用して方程式を解くことができる。 ・やや複雑な形の方程式を解くことができる。	知識・技能	○移項の意味を等式の性質と関連付けて理解している。 ○1元1次方程式を活用して問題を解決する手順を理解している。 ○比例式の意味および比例式の解き方を的確に理解している。 ○問題の中の数量やその関係を文字式で表し、それを基につくった1元1次方程式を解くことができる。 ○求めた解や解決の方法が適切であるかどうかを振り返って考えることができる。 ○1元1次方程式の解き方を基にして、比例式の解き方を考えることができる。 ○具体的な事象の中の数量の関係をとらえ、比例式をつくることができる。	○等号や不等号の使い方を理解している。 ○等号や不等号の意味や使い方および等式や不等式の意味を理解している。 ○方程式およびその解の意味を理解している。 ○等式の性質とそれを用いた1元1次方程式の解き方を理解している。 ○数の相等関係や大小関係を、等号や不等号を用いて表すことができる。 ○数量の関係を等式や不等式で表すことができる。 ○等式や不等式の意味を読み取ることができる。 ○数を代入することによって、1元1次方程式の解を求めることができる。 ○簡単な1元1次方程式を解くことができる。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
10月	②1次方程式の利用 ●具体的な場面で、1元1次方程式を活用して問題を解決する。 ●比例式の意味や解き方を理解し、活用して問題を解決する。	・具体的な問題を、方程式を利用して解くことができるようにする。 ・方程式を利用することのよさに気づき、すすんで方程式を利用して問題を解決しようとする。	思考・判断・表現	○等式や不等式の意味を読み取るために、文字が表す数量とその相等関係や大小関係をとらえることができる。 ○具体的な事象の中の数量の関係をとらえ、1元1次方程式をつくることができる。 ○求めた解や解決の方法が適切であるかどうかを振り返って考えることができる。 ○具体的な事象の中の数量の関係をとらえ、比例式をつくることができる。	○数量の関係を等式や不等式で表すために、具体的な場面で数量の関係を捉えることができる。 ○1元1次方程式の解は1つであることをとらえることができる。 ○等式の性質を基にして、1元1次方程式の解き方を考えることができる。 ○等式の性質を基にして、移項のきまりを見だし説明することができる。 ○1元1次方程式の解き方を基にして、比例式の解き方を考えることができる。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
			主体的に学習に取り組む態度	○方程式に関心を持ち、解の意味を考えたり、様々な数を代入して解を求めたりしようとしている。 ○等式の性質に関心を持ち、等式の性質を用いて1元1次方程式を解こうとしている。 ○1元1次方程式を活用することに関心を持ち、問題の解決に生かそうとしている。 ○比例式に関心を持ち、その解き方を考えたり、問題の解決に生かそうとしていたりしている。	○等号や不等号を使った式に関心を持ち、式をつくったり活用して考えたりしようとしている。 ○数量の関係を調べることに関心を持ち、等式や不等式で表したり、その意味を読み取ったりしようとしている。 ○等式の性質から導かれる移項の考え方に関心を持ち、移項を用いて1元1次方程式を解こうとしている。	授業観察 定期考査 問題集 自習ノート 反省プリント

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
10月	①関数と 比例・反比例 ●具体的な事象の中から、ともなって変わる2つの数量を見いだす。 ●変数、変域の意味を理解する。	- 具体的な事象の中から、比例関係にある2つの数量を見いだし、比例の式について理解する。 - 変数と変域の意味を理解する。	知識・技能	- 関数の意味を理解している。 - 比例の式や、変化や対応の仕方を、既習事項と関連付けて理解している。 - 具体的な事象の中には、比例・反比例とみなすことで変化や対応の様子を調べたり、予測したりできるものがあることを理解している。 - 文字に具体的な数値を代入するなどして、yはxの関数であるかどうかを調べることができる。 - 比例、反比例の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	- 変数、変域の意味を理解している。 - 比例・反比例の意味や変化の特徴を理解している。 - 座標の意味を理解している。 - 比例・反比例のグラフの特徴を理解している。 - 比例や反比例の関係を、表、式、グラフで表すことができる。 - 変数の変域を不等号を使って表すことができる。 - 比例・反比例の関係を式で表すことができる。 - 比例・反比例の式から表を作り、グラフを描くことができる。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
	②比例の性質 と調べ方 ●比例の意味を理解する。 ●座標の意味を理解する。 ●比例の式やグラフの意味を理解し、表す。	- 比例は、変域を負の範囲まで考える場合や比例定数が負の場合もあることを理解する。 - 対応する1組のx、yの値から、比例の式を求めることができる。 - 座標の意味を理解し、比例の関係をグラフに表すことができる。 - 比例$y=ax$の変化や対応の仕方と関連付けて比例のグラフの特徴を調べ、比例関係の理解を深める。	思考・判断・表現	- ともなって変わる2つの数量の対応の様子に着目し、関数関係といえるかどうかを考えることができる。 - 変域が負の範囲を含む場合や比例定数が負の場合についても、比例・反比例の関係になるものがあることをとらえることができる。 - 具体的な事象の中から取りだした2つの数量の関係が比例・反比例であるかどうかを判断し、変化や対応の特徴をとらえたり、それらを説明することができる。	- 具体的な事象の中から、ともなって変わる2つの数量を見いだすことができる。 - 具体的な事象における変数の変域を考えることができる。 - 比例のグラフが直線になることや、反比例のグラフが双曲線になることを、点の集合としての見方でとらえることができる。 - 比例・反比例のグラフの特徴を見いだすことができる。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
	③反比例の性質 と調べ方 ●反比例の意味を理解する。 ●反比例の式やグラフの意味を理解し、表す。	- 具体的な事象の考察を通して、反比例の意味を理解する。 - 反比例の変化や対応の仕方を理解する。	主体的に学習に取り組む態度	- ともなって変わる2つの数量に関心を持ち、具体的な事象の中からすすんで見つけようとしている。 - 比例や反比例を用いて具体的な事象をとらえ説明することに関心を持ち、問題の解決に生かそうとしている。	- ともなって変わる2つの数量の関係を調べることに関心を持ち、関数関係といえるかどうかを調べようとしている。 - 比例・反比例関係に関心を持ち、具体的な事象の中から、比例・反比例関係を見つけ、その関係を式で表したりしようとしている。 - 比例・反比例のグラフに関心を持ち、比例定数を変えたり調べたり、その特徴を考えたりしようとしている。	授業観察 定期考査 問題集 自習ノート 反省プリント
	④比例と反比例 の利用 ●比例や反比例を用いて具体的な事象をとらえ、問題を解決する。	具体的な事象の中から、比例・反比例の関係にある2つの数量を見いだし、問題を解決することができる。				

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
	①図形の移動 ●直線，線分，半直線の意味や，角の表し方，垂直，平行の意味や表し方などを理解する。 ●距離を理解する。 ●図形の移動の関係について，調べる。	・直線，線分の意味や，垂直，平行の表し方を理解する。 ・線対称な図形や点対称な図形について考察し，その性質を理解する。 ・いろいろな図形を，線対称・点対称の観点で考察し，図形の見方の理解を深める。	知識・技能	○図形に関する用語の意味を理解し，その特徴を理解している。 ○円の接線の性質を理解している。 ○図形の移動の描き方を理解している。 ○図形の移動を理解し，ひし形やたこ形の対角線の性質を理解している。 ○基本的な作図を活用して，いろいろな作図の方法を理解している。 ○定規やコンパスを使って，条件を読み取り，図形や特徴ある直線にかくことができる。 ○図形の移動や基本的な作図の性質や特徴を記号を使って表すことができる。 ○基本的な作図を活用して，特徴ある角，円の中心，円の接線などを作図することができる。 ○おうぎ形の弧の長さや面積を求められる。	○直線，線分，半直線の意味を理解している。 ○三角形や角の表し方，交点の意味を理解している。 ○平行，垂直の意味とその表し方を理解している。 ○円に関する用語の意味を理解している。 ○平行移動，回転移動，対称移動の意味を理解している。 ○作図の意味を理解している。 ○基本的な作図の方法を理解している。 ○定規やコンパスを使って，平行線や垂直な直線，正六角形などにかくことができる。 ○三角形の角，直線の平行や垂直の関係，円の弧を，記号を使って表すことができる。 ○図形の移動や基本的な作図を定規やコンパスを使って，描くことができる。 ○おうぎ形の弧の長さや面積の求め方を理解している。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
	②基本の作図 ●基本の作図の方法を理解する。 ●基本の作図を活用して，角の作図や円の接線の作図，円の中心を求める作図などの方法を考え，作図を行う。	・交わる2円の性質をもとにして，基本的な作図の原理を理解する。 ・垂線，垂直二等分線，角の二等分線などの作図ができる。 ・基本の作図を利用して， 30° の角や円の中心，円の接線などの作図ができる。	思考・判断・表現	○移動前後の図形の関係性をすすんで調べ，図形の性質を見いだすことができる。 ○特徴ある四角形について調べ，対角線の性質などを見いだすことができる。 ○基本的な作図の方法を図形の性質などを基にして，見通しを持って考え，作図した図形が条件に適するものであるかどうかを，振り返って考えることができる。	○直線，線分，半直線の違いをとらえることができる。 ○いろいろな関係の距離の意味をとらえることができる。 ○円の対称性を基にして，円の接線の性質を見いだすことができる。 ○特徴ある四角形を三角形の移動と関連付けてとらえることができる。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
	③おうぎ形 ●弧，弦，おうぎ形の意味を理解する。 ●円の面積や円周の長さを π を用いて表す。 ●おうぎ形の弧の長さや面積の求め方を理解する。	・弧，弦，おうぎ形，半直線などの意味や角の表し方などを理解する。	主体的に学習に取り組む態度	○平面図形の基本的な概念に関心をもち，調べようとしている。 ○図形の移動に関心をもち，移動前後の関係を考えたりしようとしている。 ○基本的な作図に関心をもち，その方法を考えようとしている。 ○作図を活用することに関心をもち，問題の解決に生かそうとしている。	○定規やコンパスを使って図形にかくことに興味を持ち，描き方を考えようとしている。 ○平面図形を構成する要素や基本的な概念に関心を持っている。 ○円に興味を持ち，弧や弦，接線の性質などを調べようとしている。 ○平行移動，回転移動，対称移動に関心をもち，図形を移動することができる。 ○基本的な作図に関心をもち，描くことができる。	授業観察 定期考査 問題集 自習ノート 反省プリント

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
	①いろいろな立体 ●角錐，円錐について理解する。 ●多面体および正多面体について理解する。 ②立体の見方と調べ方 ●平面の決定条件を理解する。 ●空間における直線，平面の位置関係や距離について理解する。 ●空間図形を面が動いてできる立体として理解する。 ●立体の展開図を理解する。 ●立体の投影図の意味を理解する。 ③立体の体積と表面積 ●立体の体積を求める式を理解し，体積を求められる。 ●展開図を基にして立体の表面積を求める。 ●円錐の側面積や表面積を求める。 ●球の表面積や体積の求め方を理解する。	・いろいろな立体の見方に着目して，角錐・円錐・多面体などについて理解する。 ・空間における直線や平面の位置関係を理解する。 ・空間内での距離を理解する。 ・空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されたものととらえたり，空間図形を平面上に表現したりすることができる。 ・立体の展開図を理解する。 ・立体の投影図を理解する。 ・立体の表面積や側面積，体積の求め方を理解する。 ・球の表面積と体積の求め方を理解する。	知識・技能	○正多面体の意味およびその種類を理解している。 ○立体を投影図に表す方法を理解している。 ○基本的な柱体や錐体の展開図を理解している。 ○球の表面積や体積の求め方を理解している。 ○直線や平面図形の運動によって構成されている空間図形を，見取り図などで表すことができる。 ○投影図がどのような立体を表しているのかを読み取ることができる。 ○公式を利用して柱体や錐体の体積や球の表面積や体積を求めることができる。	○多面体の意味を理解している。 ○空間における直線や平面の位置関係や距離を理解している。 ○回転体の意味を理解している。 ○投影の意味を理解している。 ○立体の表面積，底面積，側面積の意味を理解し，求め方も理解している。 ○観点に応じて，立体を分類することができる。 ○空間における直線や平面の位置関係を記号を用いて表したり，記号を用いた表現から，その位置関係を読み取ったりすることができる。 ○立体を投影図を用いて平面上に表すことができる。 ○柱体や錐体の展開図をかくことができる。 ○円周率πを用いて，円周の長さや円の面積やおうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。 ○基本的な立体の表面積や体積を求めることができる。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
			思考・判断・表現	○空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されているとみることができる。 ○投影図を基にして，立体の性質を見いだすことができる。 ○展開図から立体の性質を見いだしたりすることができる。 ○展開図をかき，おうぎ形の性質や面積の求め方などを基にして，円錐の側面積の求め方を考え，説明することができる。 ○観察・実験などを基にして，立体の体積の求め方を考えることができる。	○立体を，柱体や錐体としてみたり，多面体としてみたりすることができる。 ○空間における直線や平面との位置関係について，考えることができる。 ○空間における点と平面の距離や平行な2平面との距離について考えることができる。 ○立体から展開図を考えることができる。 ○おうぎ形の弧の長さや面積がその中心角の大きさに比例することに着目し，それらの求め方を考えることができる。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
			主体的に学習に取り組む態度	○立体に関心を持ち，その図形の特徴をとらえるために工夫をすることができる。 ○投影図や展開図に関心を持ち，投影図を用いて立体を表したり，読み取ったりしようとしている。 ○立体の表面積や体積に関心を持ち，その求め方を考えようとしている。 ○球の表面積や体積に関心を持ち，その求め方を考えようとしている。	○立体に関心を持ち，面の種類や形状，位置関係などに着目して分類しようとしている。 ○空間における直線や平面に関心を持ち，具体物などを用いながらそれらの位置関係について考えようとしている。 ○空間図形の構成に関心を持ち，直線や運動によって，どのような空間図形が構成されているのかを考えようとしている。	授業観察 定期考査 問題集 自習ノート 反省プリント

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
	①データの整理と分析 ●ヒストグラムで、分布の様子を考える。 ●相対度数について理解して、資料の傾向を比べる。 ●平均値、中央値、最頻値について理解し、適切な代表値を用いる必要があることを理解する。	・ヒストグラムから、特徴をとらえることができる。 ・相対度数、累積度数、累積相対度数を理解する。 ・中央値、平均値、最頻値を理解する。 ・データや表をグラフに整理することができる。 ・データの分布の傾向を読み取り、考察し判断することができる。 ・相対度数からことがらの起こりやすさを求められる。	知識・技能	○ヒストグラムや度数折れ線の必要性和意味を理解している。 ○相対度数の必要性や意味を理解している。 ○平均値、中央値、最頻値の必要性や意味を理解している。 ○ヒストグラムや代表値、相対度数などを用いて、問題を解決する手順を理解している。 ○問題を解決するために、資料を収集し、ヒストグラムや代表値、相対度数などを用いて資料を整理することができる。	○ヒストグラムや度数折れ線の意味を理解している。 ○相対度数の意味を理解している。 ○平均値、中央値、最頻値の意味を理解している。 ○度数分布表を基にして、ヒストグラムや度数折れ線にかくことができる。 ○度数分布表を基にして、相対度数を求めたり、度数折れ線をかいたりすることができる。 ○資料全体や度数分布表を基にして、平均値や中央値、最頻値を求めることができる。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
	②データの活用 ●資料を収集・整理して傾向を読み取り、レポートを基にして説明し伝え合う。		思考・判断・表現	○ヒストグラムや度数折れ線や相対度数を基にして、2つの資料の傾向を比べることができる。 ○状況に応じて、どの代表値を用いるのが適切かを考えることができる。 ○問題を解決するために、ヒストグラムや代表値、相対度数などを適切に用いて資料の傾向をとらえ、それを説明することができる。	○ヒストグラムや度数折れ線を基にして、資料の傾向を読み取ることができる。 ○代表値を基にして、資料の傾向を読み取ることができる。	授業観察 定期考査 問題集 反省プリント
	③ことがらの起こりやすさ ●相対度数からことがらの起こりやすさを求める。		主体的に学習に取り組む態度	○表やグラフなどを用いることに関心をもち、2つの資料の違いなどを調べようとしている。 ○代表値に関心をもち、平均値や中央値、最頻値を用いて資料の傾向を調べようとしている。 ○ヒストグラムや代表値、相対度数などを用いて資料の傾向をとらえ説明することに関心をもち、問題の解決に生かそうとしている。	○ヒストグラムに関心をもち、ヒストグラムや度数折れ線を用いて資料に傾向を調べようとしている。 ○2つの資料の傾向を比べることに関心をもち、相対度数を用いて調べようとしている。	授業観察 定期考査 問題集 自習ノート 反省プリント